

2018年度(平成30年度)学校評価自己評価表

| | | |
|--------|-------|------------------|
| 城北中学校区 | 校番 56 | 福山市立久松台小学校 |
| 最終更新日 | | 2019年(平成31年)2月8日 |

I 福山市

| | |
|-------|--|
| ミッション | 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 |
| ビジョン | 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。 |

II 中学校区

| | | | |
|--|--|---------------------------|---|
| 前年度学校関係者評価の主な内容 | 児童生徒の現状 | 育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) | 思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ力、他者とかわる力、社会貢献力、自己形成力 |
| 学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。目標が達成できていないものについては、取組の進捗状況を細かく把握し、課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。 | 広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果、城北中学校区は、概ね県平均を上回っている。また、校区共通で取り組んだことで、「家庭学習の定着」や「あいさつ」、「地域行事参加」などの意欲は向上してきているが、自分から進んで行うことにはまだ課題がある。 | めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) | じっくり考え、はっきり表現し、くり返し粘り強く挑戦する児童・生徒 (J) (H) (K) |
| | | 中学校区として統一した取組等 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や家庭学習の目安を示した校区スタンダードの取組 毎月15日にあいさつデーとして校区合同挨拶運動の取組 中学校のテスト期間に合わせて家庭学習頑張り週間とノーメディアデーの取組 合同行事・乗り入れ授業・「総合的な学習の時間」発表会の取組 |

III 自校

| | | | | | |
|---|---------------------------|--|---|---|--|
| ミッション | 育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) | 主体的に学ぶ力 | 表現力 | 他者とつながる力 | 社会や自然と関わろうとする |
| 未来を切り拓く「生きる力」を育成する 「すべては子どもたちのために」を基底に据え、学校・保護者・地域が連携し、「この学校へ来てよかった」「この学校へ来させてよかった」といわれる学校に | めざす子ども像 | <ul style="list-style-type: none"> わくわく感を持って授業にのぞんでいる。 自ら問題解決しようとしている。 自ら進んで課題を見し、問題解決しようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 既習内容や経験を活用しながら自分の考えを伝えることができる。 自分と友達の考えを比較し、共通点や相違点を見つけることを通して根拠を明確にしながら自分の考えを伝え、考えを広げたり、深めたり示し、よりよい考えを生み出すことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 反応しながら聞くことができる。 友達の考えを大切に受け止めることができる。 友達の意図を汲んで自分の考えを伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な社会や自然に親しみ、やさしい心で接する。 身近な社会や自然に親しみ、自分との繋がりを大切ににする。 身近な社会や自然に進んで関わり、自分とのつながりを大切にする。 |
| 学校教育目標 | 研究 | 教科等 | 理科・家庭科(生活科) | | |
| 自ら考え 正しく判断し 行動する 感性豊かな子 | めざす授業の姿 | 主題・内容等 | 根拠を明確に表現し、学び合う子どもの育成 ～学ぶ必然性のある授業の工夫を通して～ | | |
| 現状 | | | 【主体的な学びのある授業】 | | |
| <p><児童生徒></p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学習状況調査の「国語・算数」では全国平均・県平均を、広島県「基礎・基本」定着状況調査の「国語・算数・理科」では県平均・市平均ともに上回り、基礎的・基本的な学力は定着している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者と関わり合いながら、自分の考えを深めることには課題がある。 <p><授業></p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 提示されたキーワード等を使って考えをまとめるなど、根拠を明確に表現する児童が増えてきている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業において、「めあて」と「まとめ」の整合を図り、ゴールを明確にした問題解決型の授業を展開することに課題がある。 | | | | | |

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立久松台小学校

| 年目 | 中期経営目標 | 重点 | 分類 | 短期経営目標 | 目標達成に向けた取組 | 評価指標 | 中間評価(10月1日) | | | 最終評価(2月末) | | | | | |
|----|---------------------|----|-----|------------------|--|--|--|-------|------|---|---|-------|------|------|--|
| | | | | | | | □指標に係る取組状況 | 70%評価 | 達成評価 | 改善方策 | □指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況 | 70%評価 | 達成評価 | 総合評価 | 改善方策 |
| 3 | 自ら考え学ぶ児童の育成と基礎学力の定着 | ★ | 見直し | 主体的に授業に取組む児童生徒 | 思考ツールを授業で活用させる。 | 思考ツールを活用して、考えをノートに書く児童を90%以上にする。 | 思考ツールを活用して、考えをノートに書く児童は、59.3%であった。 | 3 | 2 | 集団解決等の場面で、「比較」など思考させる活動を意図的に仕組み、自分の考えを明確化させる。 | □思考ツールを活用して、考えをノートに書く児童は、74.4%であった。 ◎自分の考えを、思考ツールを使って書けるようになり、主体的に授業に取組む基礎が育ってきている。 | 3 | 3 | 3 | 自分の考えを図表やグラフでかけるようにするために、基本的な書き方指導をするとともに、教師が思考ツールを提示しなくても自分で選ぶことのできる児童を育てる。 |
| | | | | 基礎学力が定着している児童 | スキルタイムを充実させる。ドリル・難問・言語技術の年間計画を立てて実施する。 | 標準学力調査及び単元テストの平均点が、全国平均よりも3ポイント上回るようにする。 | 単元テストの国語科では、12クラス中11クラス3ポイント上回った。算数科では、6クラスが3ポイント上回った。 | 3 | 2 | 特に算数科が弱いため、スキルタイム等で重点的に扱い、改善を図っていく。授業では、課題を明確にし、見通しが持てる授業を創造する。 | □単元末テストの国語科では、12クラス中8クラスが3ポイント上回った。算数科では7クラスが3ポイントを上回った。 □1月に実施した標準学力調査結果では、校内平均 国語74.8点(全国平均より+4.7点)、算数76.9点(全国平均より+3.9点)で、全国平均より3ポイント上回ることができた。 ◎単元テストにおいて全国平均点を下回っているクラスはほとんどなく、基礎学力は定着している。 | 3 | 3 | 3 | 久松台タイムでの個別の支援や、日々の授業での教え合いを通して基礎学力の定着を目指す。 |
| 3 | 主体性の育成 | | 継続 | 主体的にあいさつができる児童 | あいさつの良さを実感できるあいさつキャンペーンを毎月1回行う。 | あいさつ委員によるあいさつ運動で、あいさつ名人を90%以上にする。 | 9月までは、あいさつ名人は12クラス中10クラスが90%以上であった。 | 3 | 2 | あいさつレベルを設定し、あいさつ名人の基準を上げる。個への評価を行い、主体性を高める。 | □1月までのあいさつキャンペーンであいさつ名人になったのは全校の22%だった。 ◎自分から進んであいさつできる児童が増えているが、全体的には定着していない。 | 3 | 2 | 2 | 「あいさつカード」の取組を校内だけでなく、地域のスクールサポートボランティアさんを巻き込んで、学校全体のあいさつの定着を目指す。 |
| | | | | 人に優しく関わることのできる児童 | QUを活用し、児童の自己肯定感を高める取組を充実させる。 | QUアンケートで、学級生活満足群に属する児童を70%以上にする。 | 学級満足群に属する児童70%以上のクラスは12クラス中7クラスであった。 | 3 | 2 | 自己肯定感を高めるための個への支援や、学級実態に応じた学級作りや児童の観察をしっかりと行う。 | □学級満足群に属する児童70%以上のクラスは、12クラス中7クラスであった。 ◎結果の分析・振り返りにより、学級作りや個の支援を意識しながら学級経営を行った。 | 3 | 3 | 3 | 各学級で自己肯定感を高めるのに有効だった活動を交流し、個に応じた支援を継続して取り組む。 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---------------|------|----------------------|--|---------------------------------------|--|---|---|--|---|---|---|---|--|
| 3 | たくましく生きる体力の向上 | 継続 | 体力づくりに主体的に取り組む児童 | 毎月テーマを決め、家庭での体力づくりの課題に取り組む。 | 新体力テストで県平均以上をする。 | 新体力テストで60項目が県平均以上であった。(昨年度平均と比較) | 3 | 3 | 握力、50m走、ソフトボール投げを重点課題に設定し、設置した50mコースや柔らかいボールを体育科の授業で活用する。また、体育的行事、家庭学習等で取り組んでいく。 | <input type="checkbox"/> 再測定の結果、握力、50m走、ソフトボール投げで12項目が新たに県平均以上となった。 <input checked="" type="checkbox"/> 体育科授業等で重点課題に取り組める環境ができたことで体力が高まってきた。外遊びを更に充実させていきたい。 | 3 | 4 | 5 | 重点課題への取組を継続していく。委員会と連携して学級レクの充実を図り、外遊びをする機会を増やしていくなどして、主体的に体力づくりに取り組む児童を育てていく。 |
| 3 | 授業力の向上 | ★見直し | 授業づくりについて主体的に研修する教職員 | 授業者は模擬授業を実施する。板書計画を作成して授業を実施し、板書と児童ノートをもとに研修を行う。 | 一斉研修での学びが授業改善に役立ったと感じている教職員を70%以上にする。 | 授業改善に役立っていると感じている教職員は、100%であった。 | 4 | 4 | 見せ合いっこ授業に継続して取り組むとともに、「主体的・対話的で深い学び」のイメージの共有・実践に向けた研修を継続していく。 | <input type="checkbox"/> 授業改善に役立っていると感じている教職員は、100%であった。 <input checked="" type="checkbox"/> 授業作りについて主体的に研修する教職員が増えた。 | 3 | 4 | 5 | 引き続き、見せ合いっこ授業をするが、授業に取り組む前に共通の目標を取り入れ、主体的な学びの全教室展開を実施する。 |
| 3 | 地域貢献できる児童の育成 | 継続 | 地域のことを考え、主体的に行動できる児童 | 地域の人とのつながりを意識した活動を年に2回以上行う。 | 学年で年1回以上、個人で年1回以上地域とのつながりを意識した活動を行う。 | 学年では、6学年中2学年が活動を行った。個人では、89%の児童が、活動を行った。 | 3 | 3 | 各学年では年度中に実施する予定である。個人では、学校便りや担任より声掛けを行い、地域行事に参加できるようにしていく。 | <input type="checkbox"/> 学年では、6学年中4学年が活動を行った。残りの2学年についても、3月中に活動を行う予定である。個人では、96%の児童が、活動を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 地域のことを考え、主体的に行動できる児童が増えた。 | 4 | 4 | 4 | 今後も学校便り等で地域行事や学校での取組を紹介することにより、地域に愛着をもち、地域のためにできることを実践する児童を育てていく。 |

| [プロセス評価の評価基準] | | [達成評価の評価基準] | | [総合評価の評価基準] | |
|---------------|--|-------------|------------------------|-------------|-----------------------------------|
| 評点 | 評価基準 | 評点 | 評価基準 | 評点 | 評価基準 |
| 5 | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。 | 5 | 目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。 | 5 | 100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。 |
| 4 | 取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。 | 4 | 目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。 | 4 | 80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。 |
| 3 | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。 | 3 | 目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。 | 3 | 60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。 |
| 2 | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。 | 2 | 目標を下回り、成果よりも課題が多かった。 | 2 | 40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。 |
| 1 | 取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。 | 1 | 目標を大きく下回り、成果が認められなかった。 | 1 | 40%未満の達成度 目標を達成できなかった。 |